

令和3年度 男女共同参画社会に関するアンケート調査 報告書



室戸市
令和3年3月実施



調査概要

- 調査目的:室戸市では、女性も男性も、互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いつつ、その個性と能力を發揮できる「男女共同参画社会」の実現のため、平成30年に「第2期室戸市男女共同参画プラン」を策定し、さまざまな取り組みを進めています。このたび、社会環境の変化や新たな課題に対応するため、市民の皆様の男女共同参画に関する意識や課題、ご意見等をお伺いし、プランの見直しを検討する上での基礎的な資料とさせていただくことを目的に、このアンケート調査を実施いたしました。
- 調査対象:住民基本台帳から無作為に抽出した満18歳以上の室戸市民1,000人
- 調査期間:令和3年3月11日～3月31日
- 調査内容
 - (1) 回答者の年代・お住まい・世帯構成の比率について
 - (2) 男女平等に関する意識について
 - (3) 家庭や仕事について
 - (4) 地域活動について
 - (5) ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について
 - (6) ハラスメント(いやがらせ、いじめ)について
 - (7) セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)について
 - (8) DV(ドメスティック・バイオレンス)について
 - (9) 社会通念に対する意識について
 - (10) 男女共同参画に関する用語について
 - (11) 夫婦別姓・パートナーシップ制度・LGBTなど性的少数者について
- 調査方法:郵送調査法
- 実施機関:室戸市人権啓発課
- 回収状況:有効回収数349名(女性209名、男性131名、性別無回答9名)
有効回収率34.9%

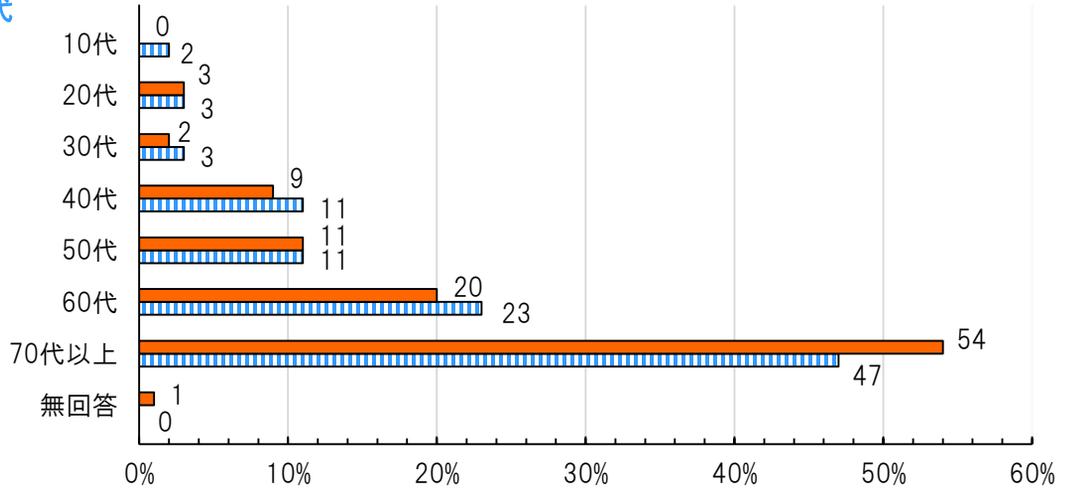


<年代別性別回収状況>

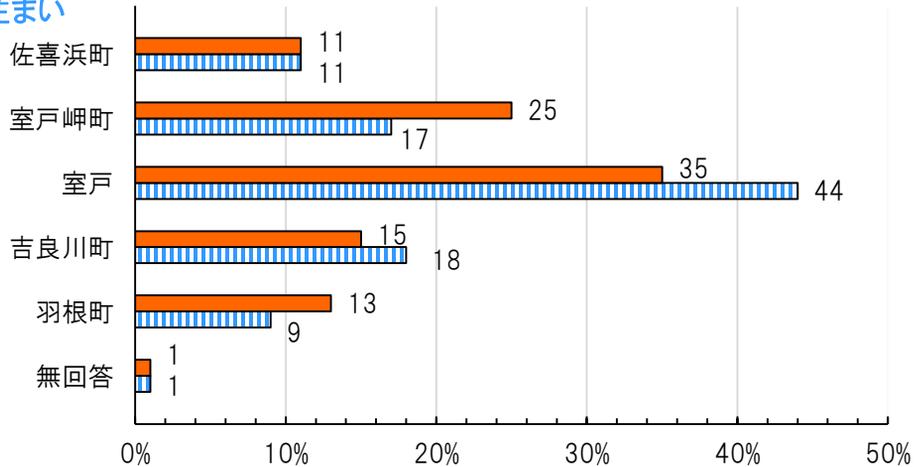
年代別	全体抽出・回答数・回収率			年代別性別回答数			男女別回答率	
	抽出数	回答数	回収率	女性	男性	無回答	女性比率	男性比率
10歳代	10人	2人	20%	0人	2人	0人	0%	100%
20歳代	49人	10人	20.4%	6人	4人	0人	60%	40%
30歳代	76人	9人	11.8%	5人	4人	0人	56%	44%
40歳代	104人	35人	33.6%	20人	15人	0人	57%	43%
50歳代	134人	38人	28.3%	23人	15人	0人	61%	39%
60歳代	183人	74人	40.4%	41人	30人	3人	58%	42%
70歳代以上	444人	177人	39.8%	112人	61人	4人	65%	35%
不明	—	4人	—	2人	0人	2人	100%	0%
合計	1,000人	349人	—	209人	131人	9人	—	—

(1) 回答者の年代・お住まい・世帯構成について

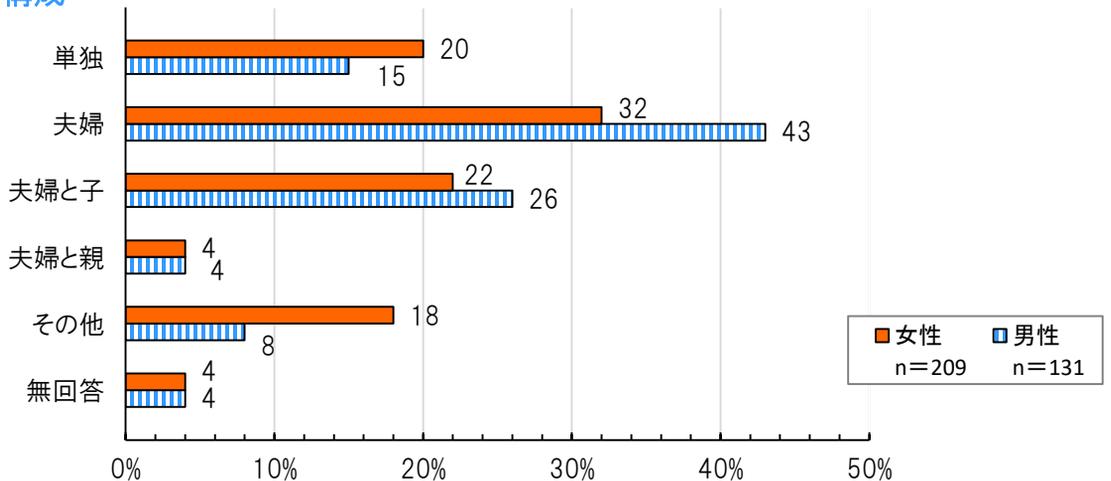
年代



お住まい



世帯構成



※注意事項

・「n」(Number of samplesの略)は設問に対する回答者の総数を示しており、回答者の構成比(%)を算出するための基数です。

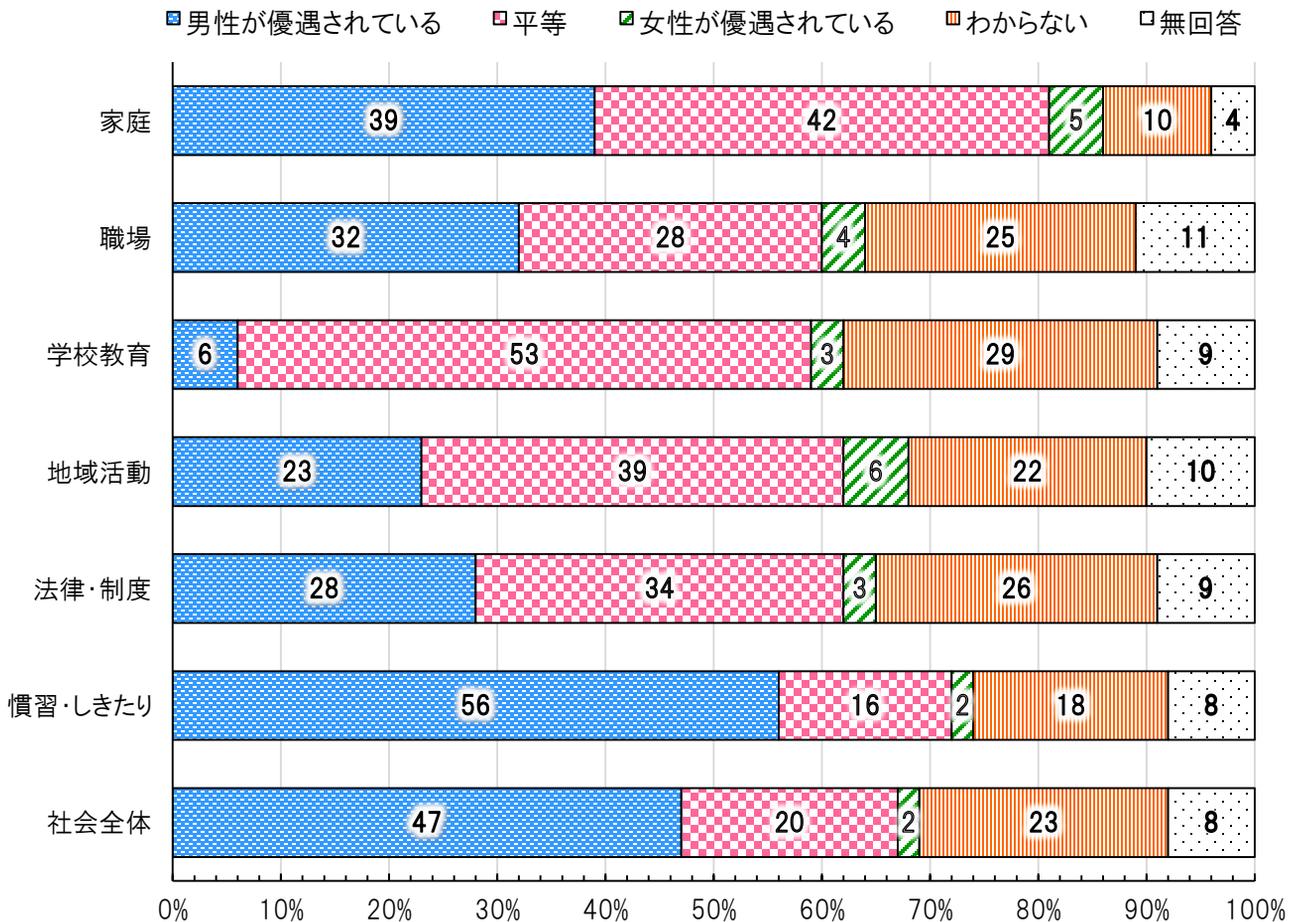
(2) 男女平等に関する意識について

●男女の平等感

男女の平等感については、「学校教育」(53%)が最も高く、次に「家庭」(42%)、「地域活動」(39%)の順に高くなっています。

しかし、「慣習・しきたり」、「社会全体」においては、男性が優遇されていると回答した割合が高くなっています。

女性が優遇されていると感じることは、どの場においても1桁台となっており、現状では不平等を感じている人が多いです。

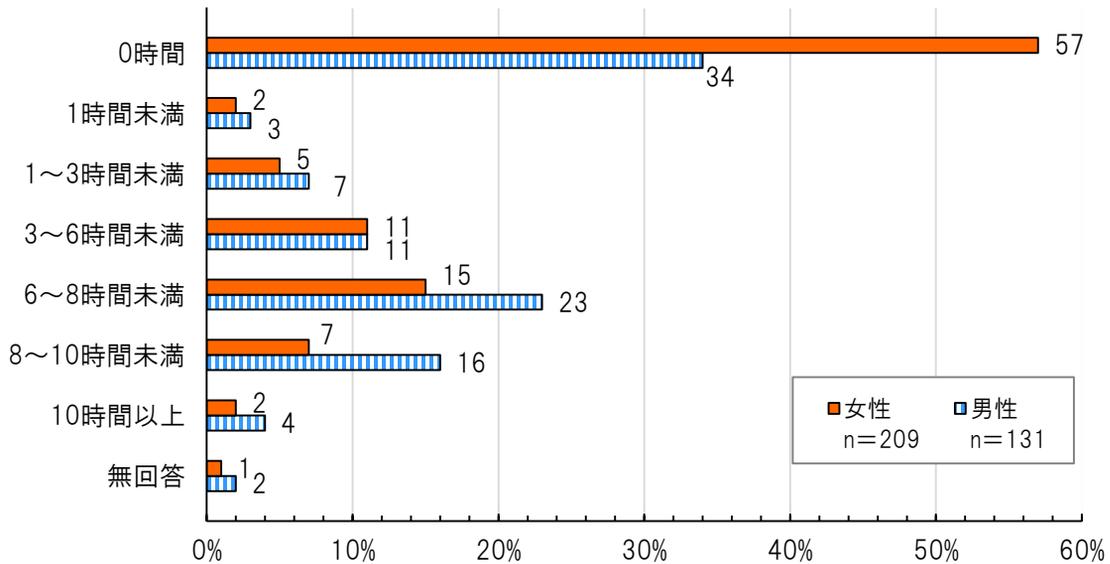


n=349

(3) 家庭や仕事について

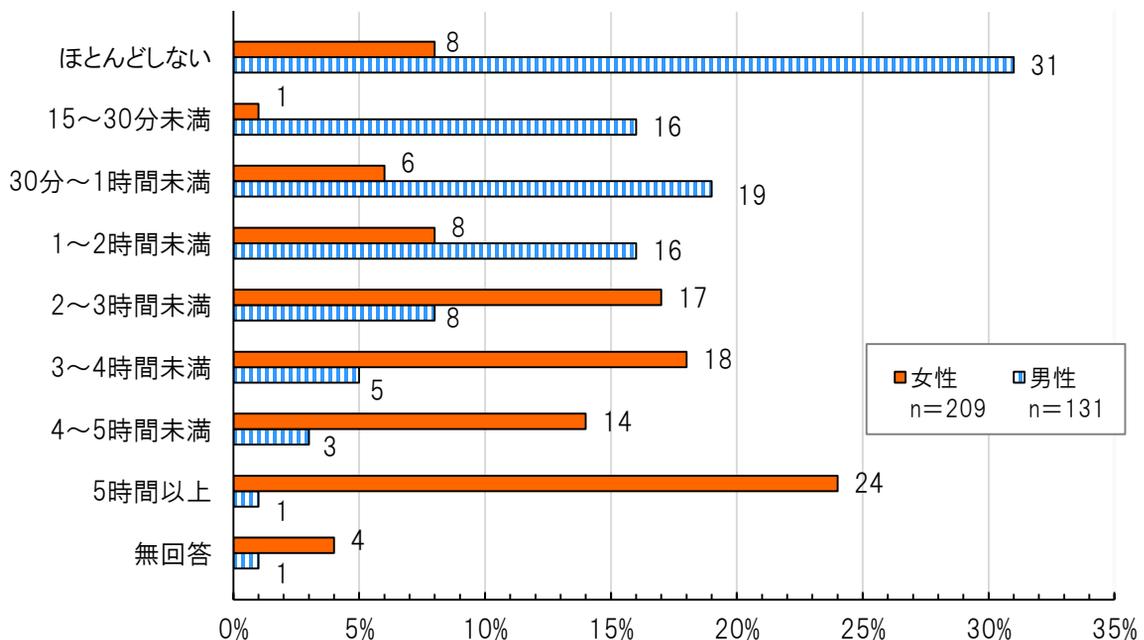
●収入をとまなう仕事の時間(1日あたり)について

収入をとまなう仕事の時間については、男女とも「0時間」を除けば、女性は「6～8時間未満」(15%)、「3～6時間未満」(11%)が高くなっているのに対して、男性は「6～8時間未満」(23%)、「8～10時間未満」(16%)が高くなっており、男性の方が仕事に関わる時間が多くなっています。



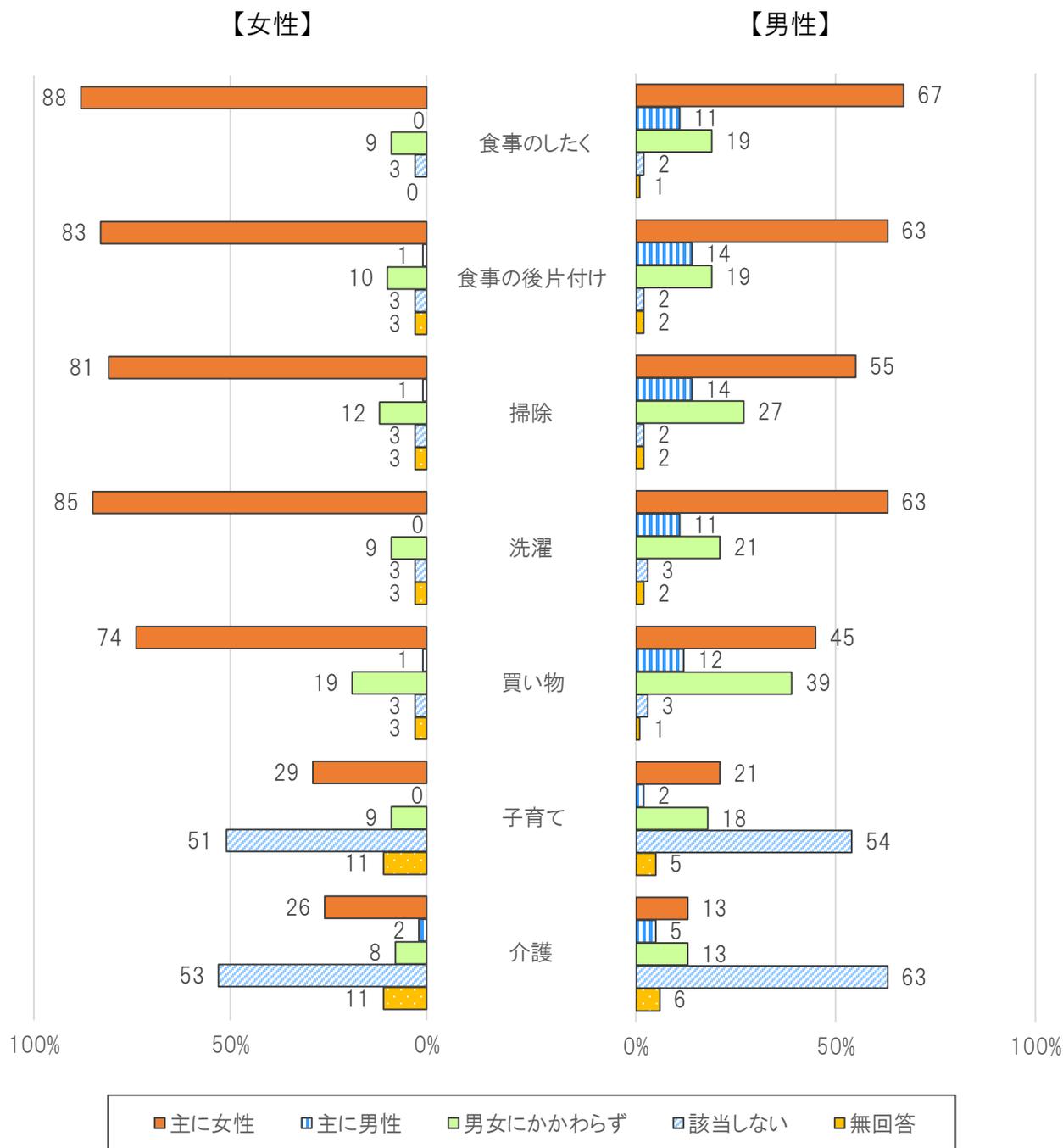
●家事・育児・介護など家庭生活に関わる時間(1日あたり)について

家事・育児・介護など家庭生活に関わる時間(1日あたり)については、女性は「5時間以上」(24%)が最も高く、「ほとんどしない」(8%)、「15～30分未満」(1%)、「30分～1時間未満」(6%)に対して、男性は「ほとんどしない」(31%)が最も高く、「15～30分未満」(16%)、「30分～1時間未満」(19%)になっており、女性の方が家庭生活に関わる時間が多くなっています。



●家庭における男女の役割分担について(現状)

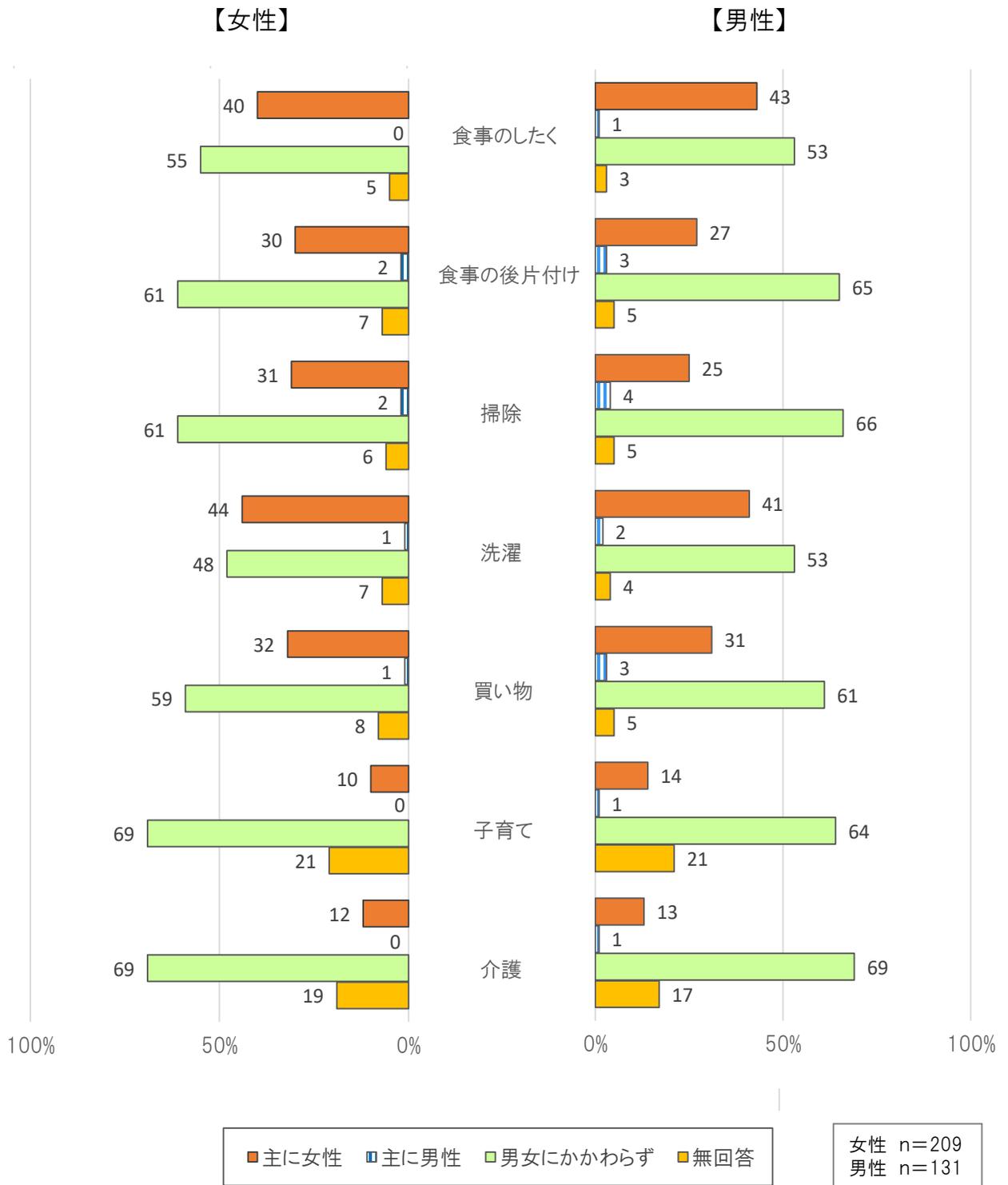
家庭における男女の役割分担については、「子育て」「介護」以外は、男女とも家庭の役割は【主に女性】が行うことが高くなっています。「子育て」「介護」は【該当しない】が高くなっていますが、次に【主に女性】が行うことが高くなっており、現状では家庭における女性の負担が大きくなっています。



女性 n=209
男性 n=131

●家庭における男女の役割分担について(理想)

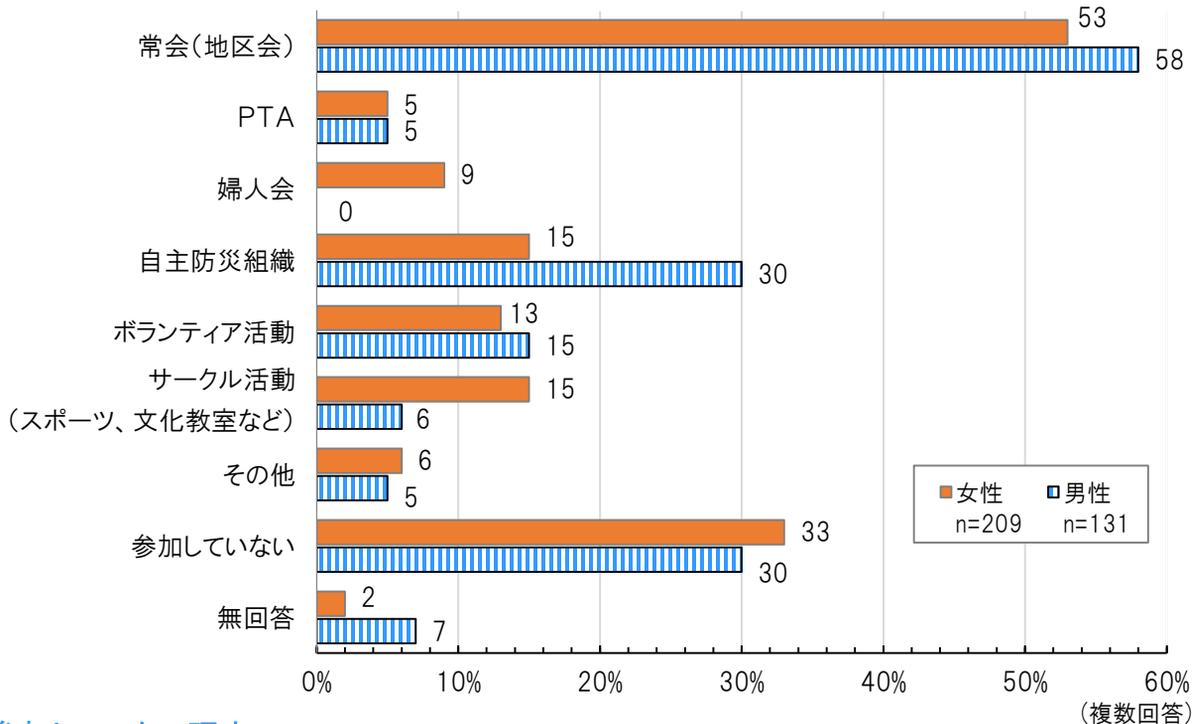
理想の家庭における男女の役割分担については、「食事のしたく」「洗濯」は【主に女性】が行うことが高くなっていますが、全体的には男女ともに【男女にかかわらず】行うことが高くなっています。



(4) 地域活動について

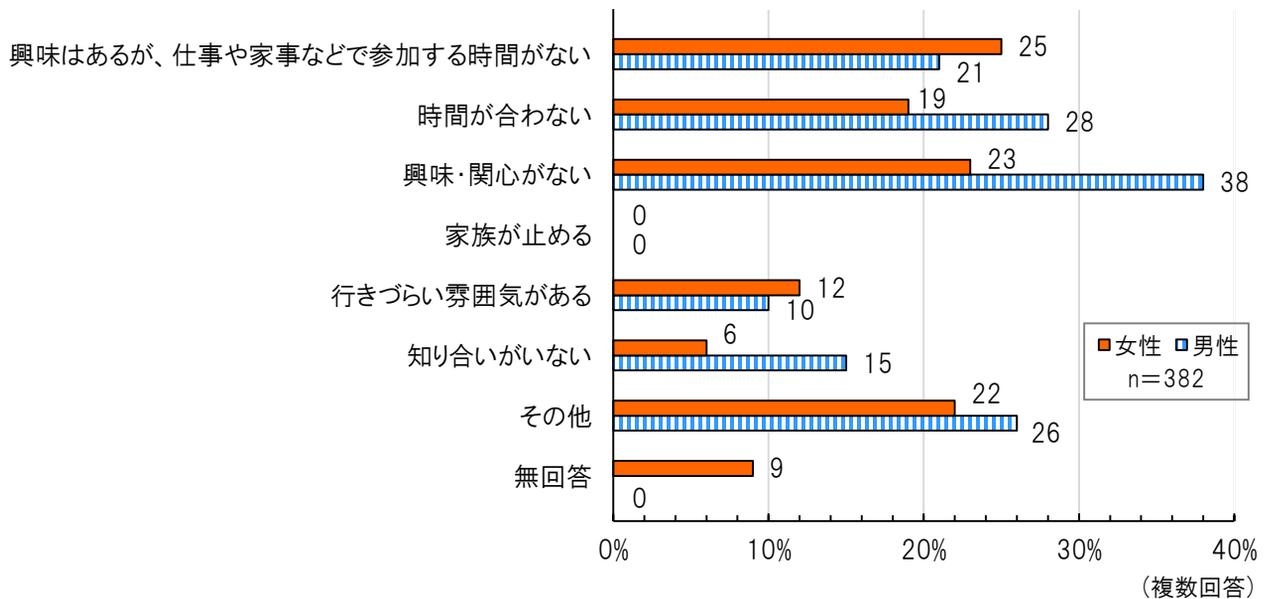
●よく参加している地域活動について

よく参加している地域活動については、男女共に「常会」が最も高く、次に女性は「参加していない」(33%)が高くなっているのに対して、男性は「自主防災組織」(30%)と「参加していない」(30%)が高くなっています。また、男女の参加割合により大きな差が出たのは「自主防災組織」となっています。



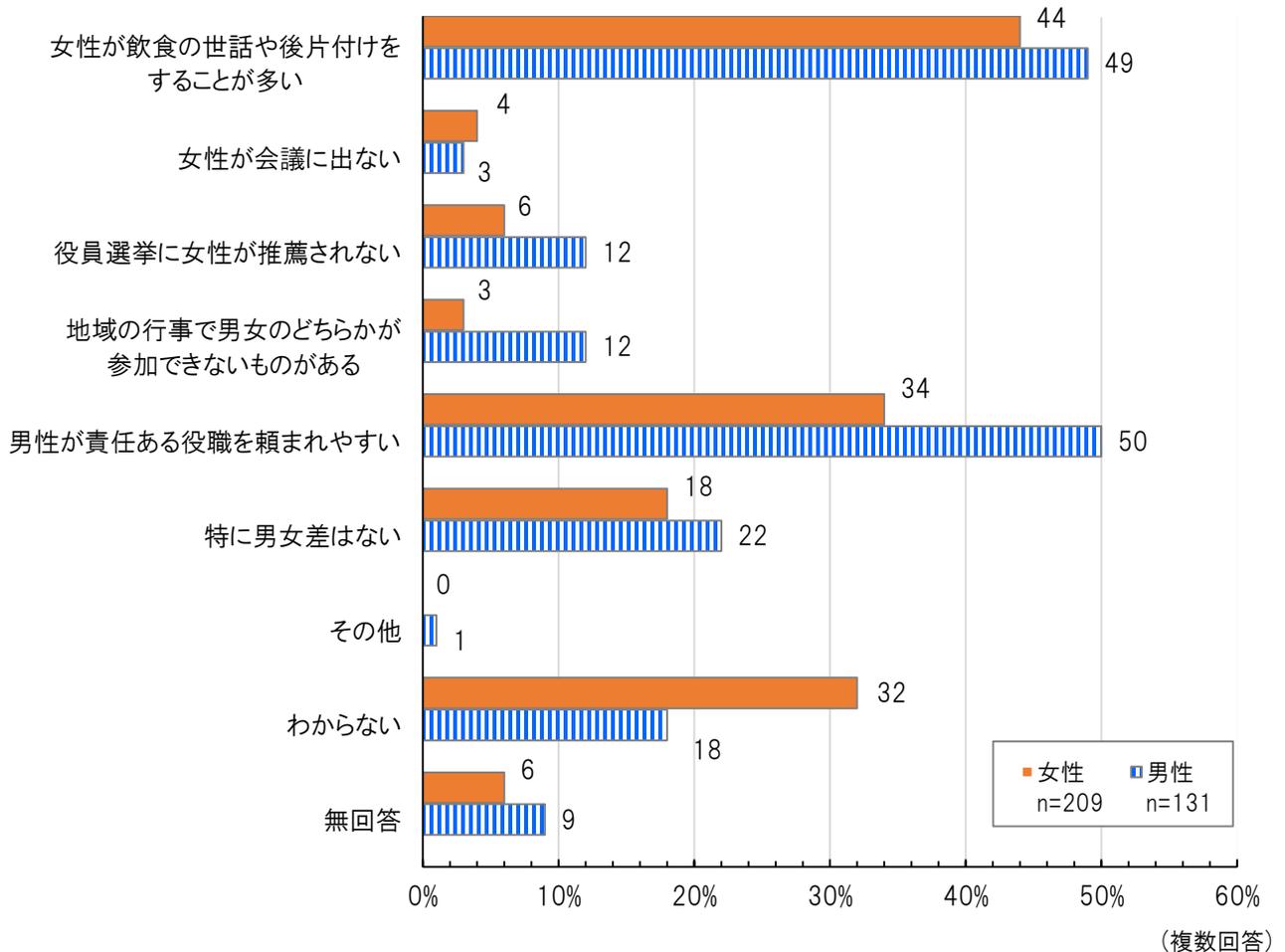
●参加していない理由

参加していない理由については、女性は「興味はあるが、仕事や家事などで参加する時間がない」(25%)が最も高く、次に「興味・関心がない」(23%)が高くなっています。男性は「興味・関心がない」(38%)が最も高く、次に「時間が合わない」(28%)が高くなっています。



●地域活動の男女差に関する傾向について

地域活動の男女差に関する傾向については、男女ともに「女性が飲食の世話や後片づけをすることが多い」と「男性は責任ある役職を頼まれやすい」ことに男女差を感じている人が高くなっています。

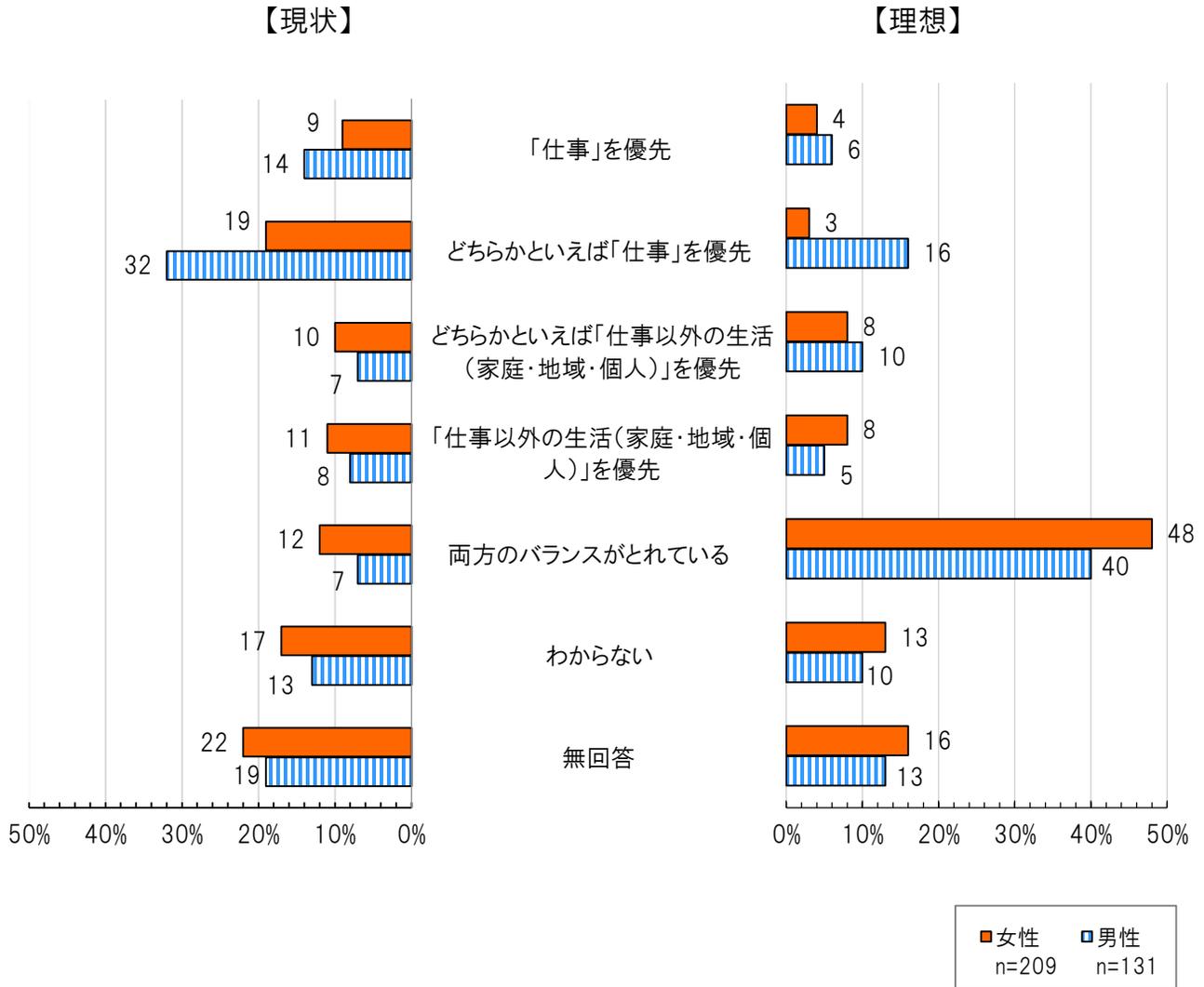


(5) ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について

●仕事と生活のバランス(現状と理想)について

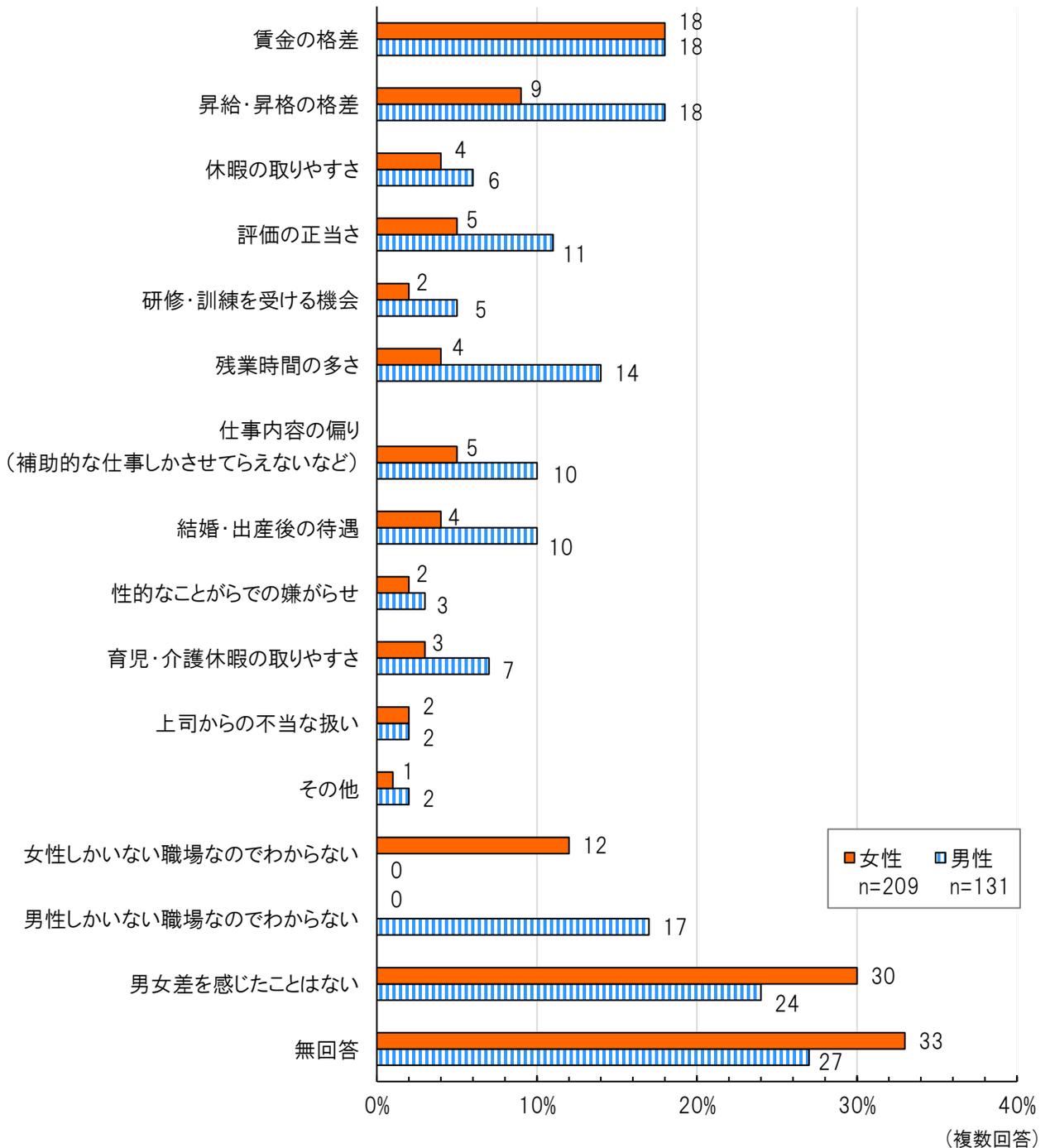
仕事と生活のバランス(現状)については、「どちらかといえば「仕事」を優先している」(女性19%、男性32%)で男女の回答に差がありました。

仕事と生活のバランス(理想)については、男女共に「両方のバランスが取れている」が最も多い結果となりましたが、「どちらかといえば仕事を優先したい」(女性3%、男性16%)で男女の回答に差がありました。



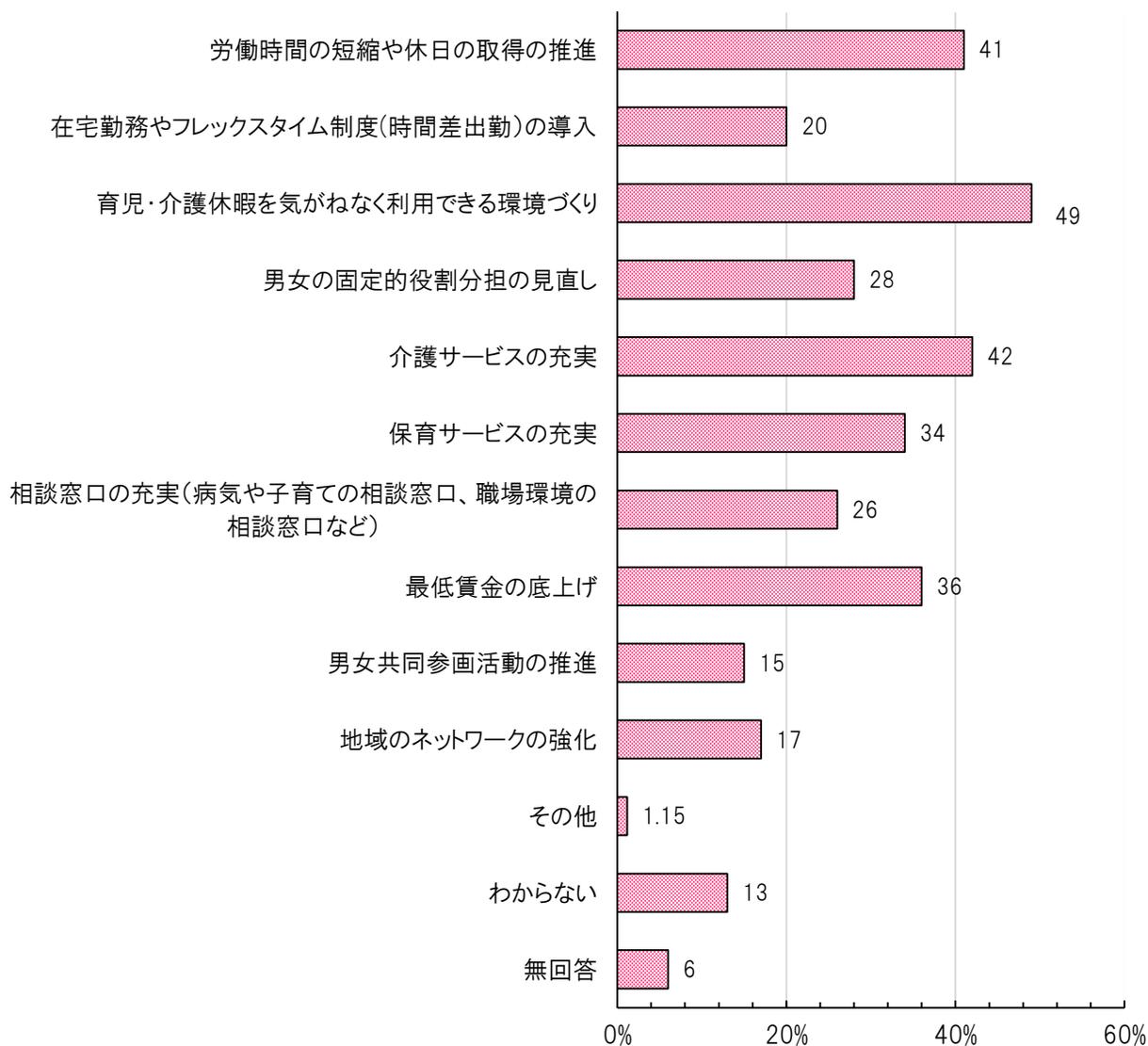
●職場で感じたことのある男女差について

職場で感じたことのある男女差については、男女とも「男女の差を感じたことがない」が最も高くなっています。しかし、男女とも「賃金の格差」(18%)、男性は「昇給・昇格の格差」(18%)と「残業時間の多さ」(14%)に男女差を感じたことがあると回答しています。



●社会生活において、男女が共に仕事と家庭を両立するために特に必要なことについて

社会生活において、男女が共に仕事と家庭を両立するために特に必要なことについては、「育児・介護を気軽に利用できる環境づくり」(49%)、「介護サービスの充実」(42%)、「労働時間の短縮や休日の取得の推進」(41%)が上位3項目となっています。



n=349

(複数回答)

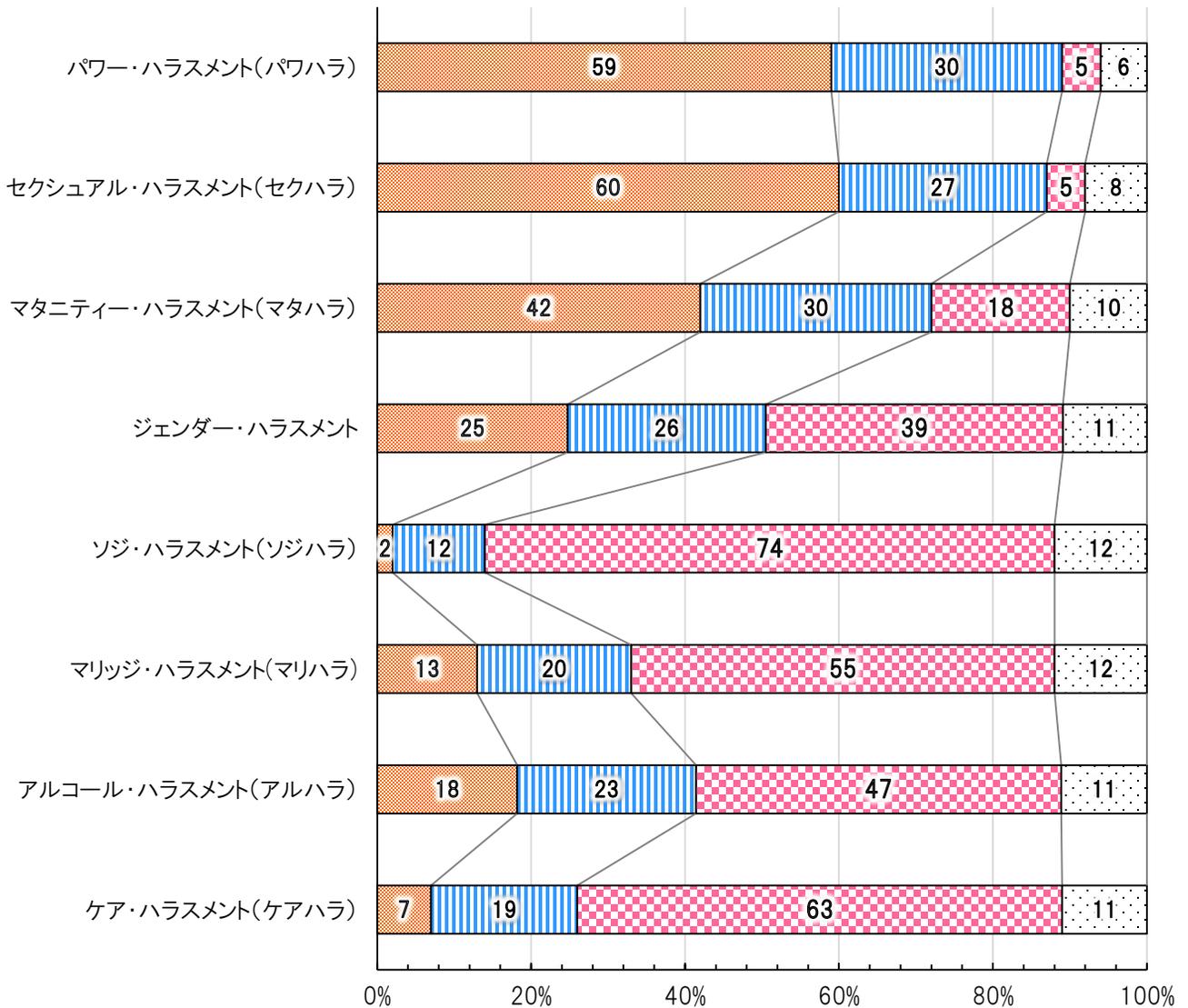
(6) ハラスメント(いやがらせ、いじめ)について

●ハラスメントの言葉の認知度について

ハラスメントの言葉の認知度については、【内容まで知っている】は「セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)」(60%)、「パワー・ハラスメント(パワハラ)」(59%)、「マタニティー・ハラスメント(マタハラ)」(42%)が上位3項目になっています。

【知らない】は、「ソジ・ハラスメント(ソジハラ)」(74%)、「ケア・ハラスメント(ケアハラ)」(63%)、「マリッジ・ハラスメント(マリハラ)」(63%)が上位3項目になっています。

■内容まで知っている □聞いたことはある □知らない □無回答

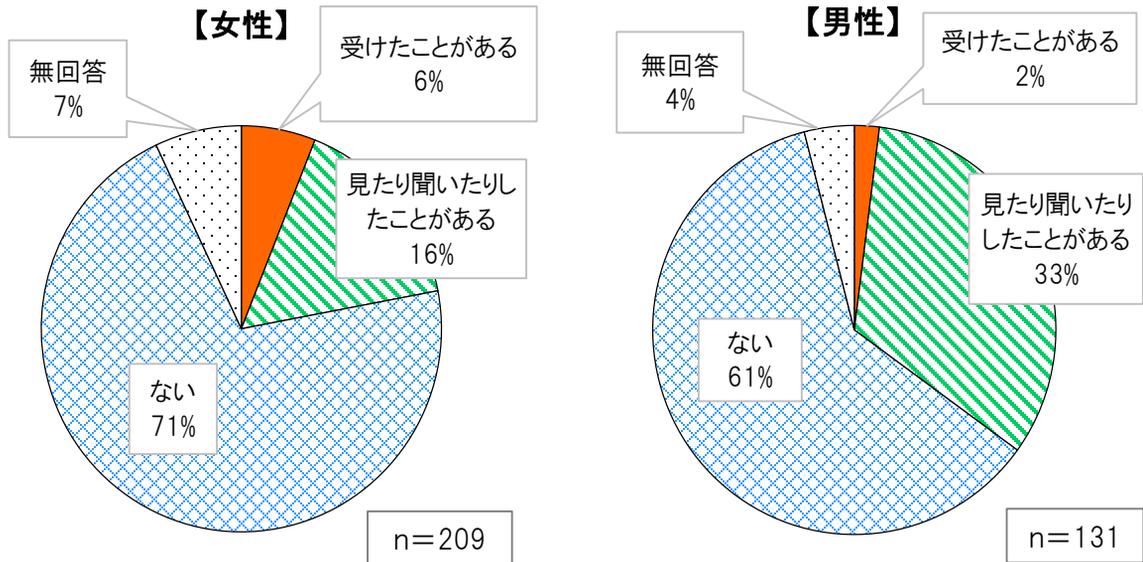


n=349

(7) セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)について

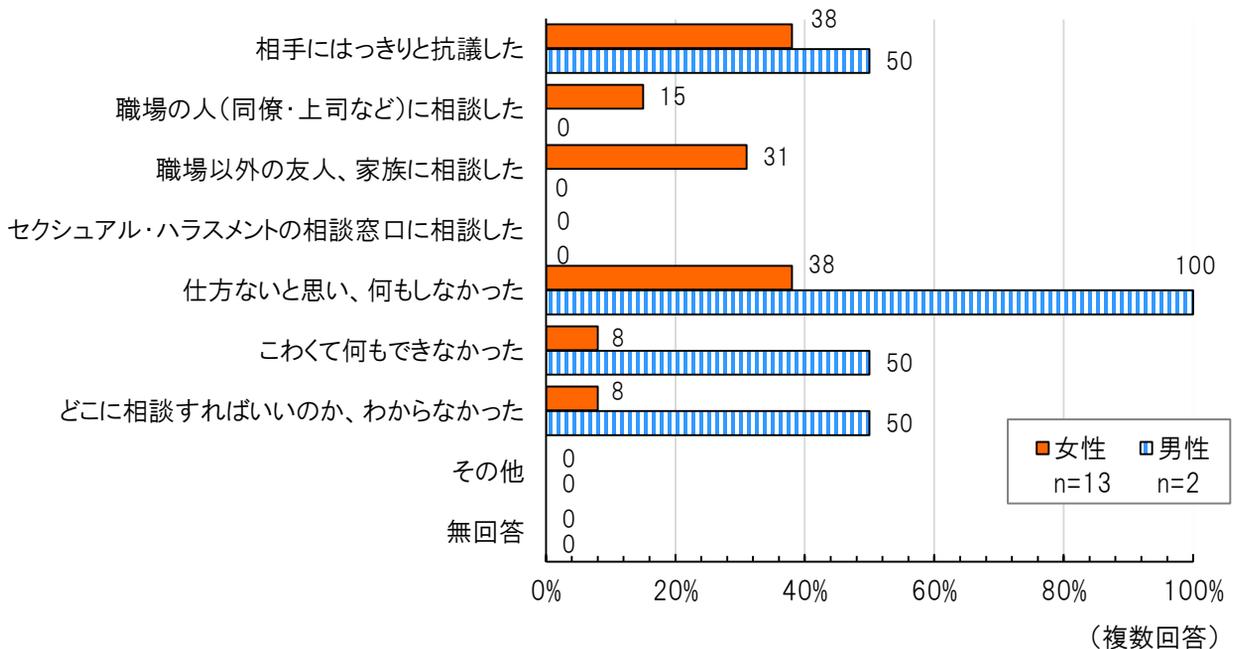
●セクシュアル・ハラスメントを受けたり、見たり聞いたりしたことがある人の割合

セクシュアル・ハラスメントを受けたり、見たり聞いたりしたことがある人の割合については、男女ともに「ない」が最も高くなっていますが、「見たり聞いたりしたことがある」(女性16%、男性33%)、「受けたことがある」(女性6%、男性2%)と回答している人もいます。



●セクシュアル・ハラスメントを受けたあとの対応

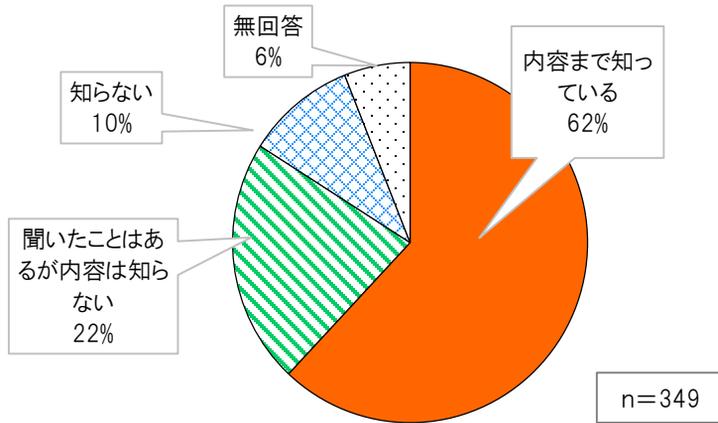
セクシュアル・ハラスメントを受けたあとの対応については、男性は「仕方ないと思い、何もなかった」(100%)が最も高く、女性は「相手にはっきりと抗議した」(38%)、「仕方ないと思い、何もなかった」(38%)が最も高くなっています。また、「セクシュアル・ハラスメントの相談窓口にご相談した」については男女とも0%となっています。



(8) DV(ドメスティック・バイオレンス)について

●DV(ドメスティック・バイオレンス)を知っている人の割合

DV(ドメスティック・バイオレンス)を知っている人の割合については、「知っている」(62%)が最も高く、次に「聞いたことはあるが内容は知らない」(22%)となっています。



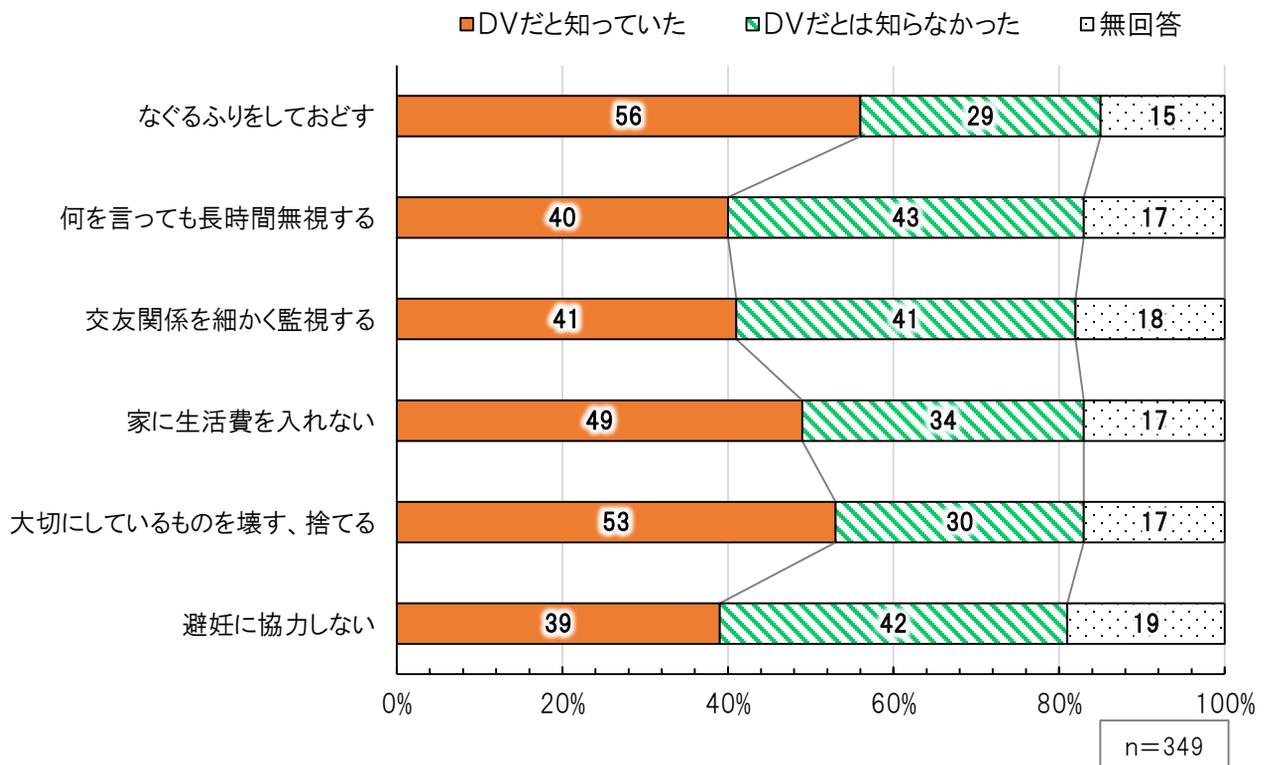
※DV(ドメスティック・バイオレンス)とは

配偶者や恋人など親密な関係にある、又あった者から振られる暴力のことをいいます。
身体的なものだけではなく、精神的、社会的な暴力も含まれます。

●DV(ドメスティック・バイオレンス)の内容の認知度

DV(ドメスティック・バイオレンス)の内容の認知度については、【DVだと知っていた】ものについては、「なぐるふりをしておどす」(56%)、「大切にしているものを壊す、捨てる」(53%)、「家に生活費を入れない」(49%)が上位3項目となっています。

【DVだとは知らなかった】ものについては、「何を言っても長時間無視をする」(43%)、「避妊に協力しない」(42%)、「交友関係を細かく監視する」(41%)になっています。



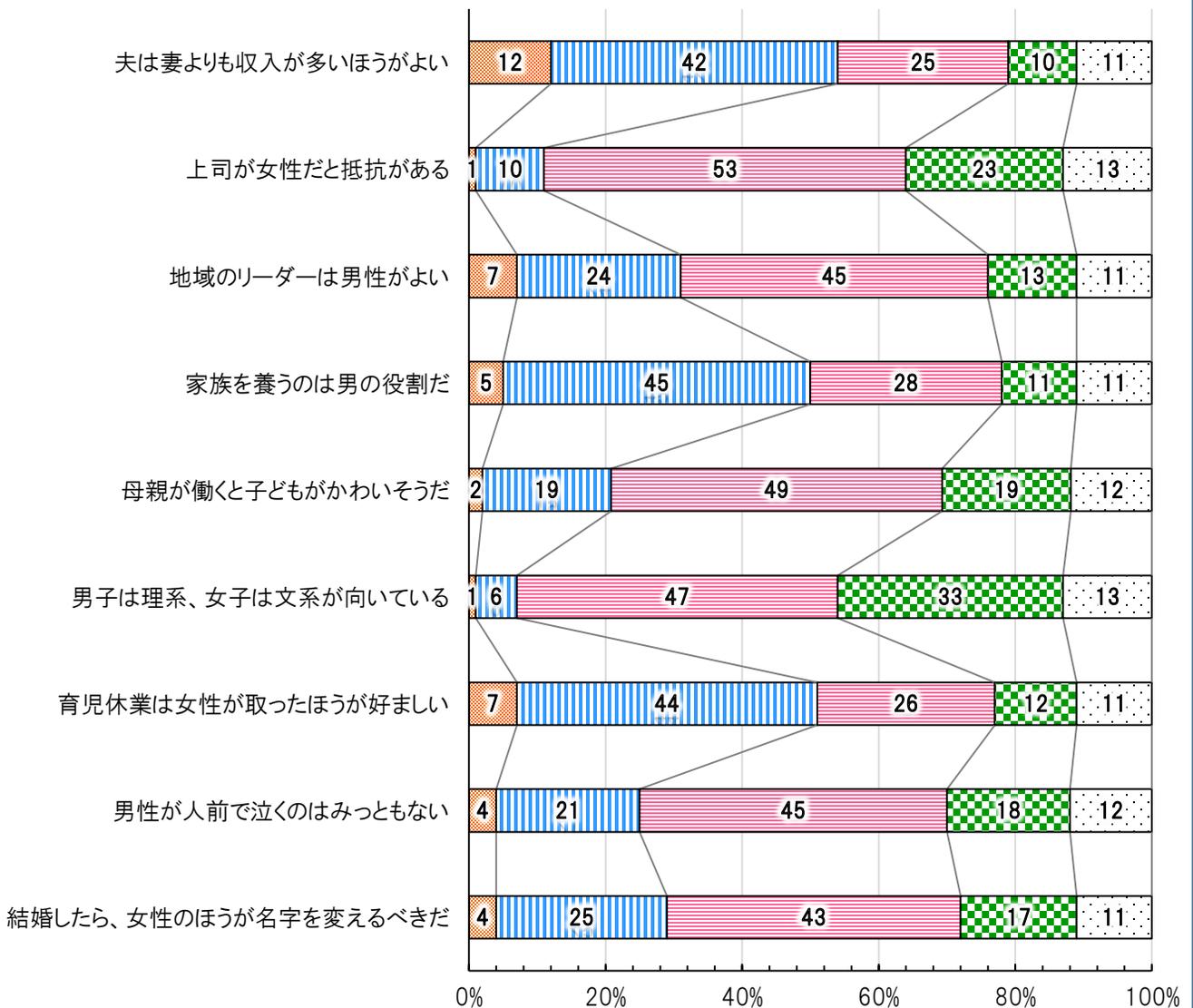
(9) 社会通念に対する意識について

●社会通念に対する意識について

社会通念に対する意識については、【とても思う】【思う】は「夫は妻よりも収入が多いほうがよい」(54%)、「育児休業は女性が取ったほうが好ましい」(51%)、「家族を養うのは男の役割だ」(50%)が上位3項目になっています。

【思わない】【まったく思わない】は「男子は理系、女子は文系が向いている」(80%)、「上司が女性だと抵抗がある」(76%)、「母親が働くと子どもがかわいそうだ」(68%)が上位3項目になっています。

■とても思う ■思う ■思わない ■まったく思わない □無回答



n=349

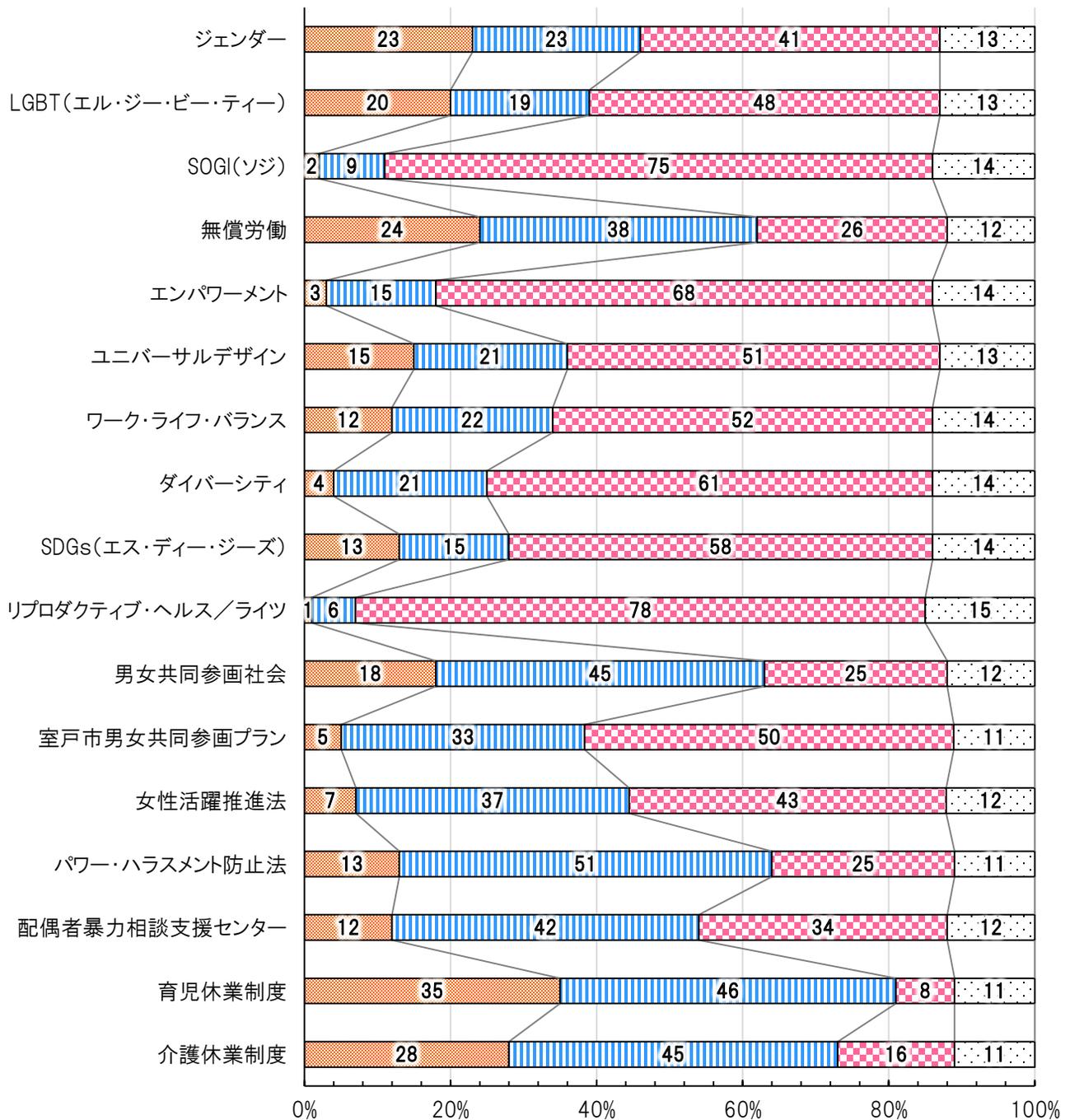
(10) 男女共同参画に関する用語について

●男女共同参画に関する用語について

男女共同参画に関する用語については、【知っている】【聞いたことはある】は「育児休業制度」(81%)、「介護休業制度」(73%)、「パワー・ハラスメント防止法」(64%)が上位3項目になっています。

【知らない】は「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」(78%)、「SOGI(ソジ)」(75%)、「エンパワーメント」(68%)が上位3項目になっています。

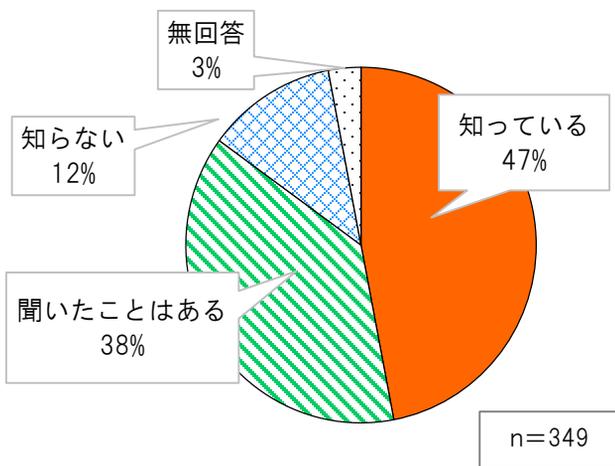
■知っている ■聞いたことはある ■知らない □無回答



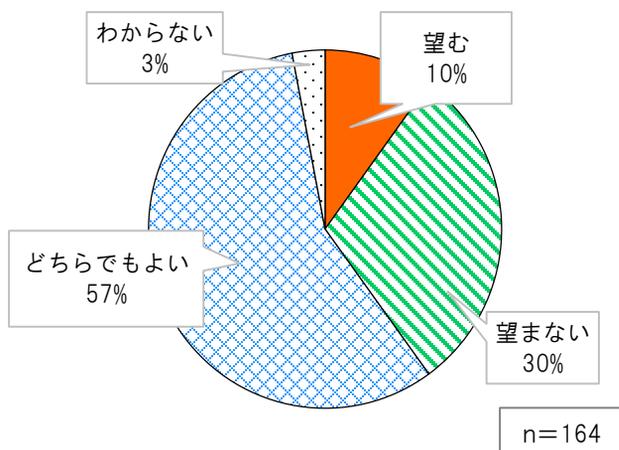
n=349

(11) 夫婦別姓・パートナーシップ制度・LGBTなど性的少数者について

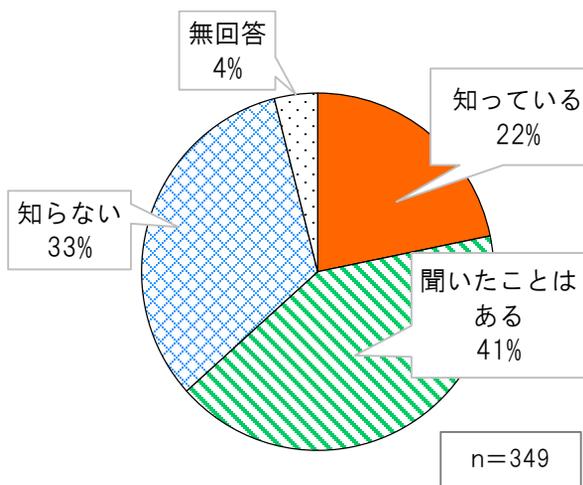
●夫婦別姓について知っている人の割合



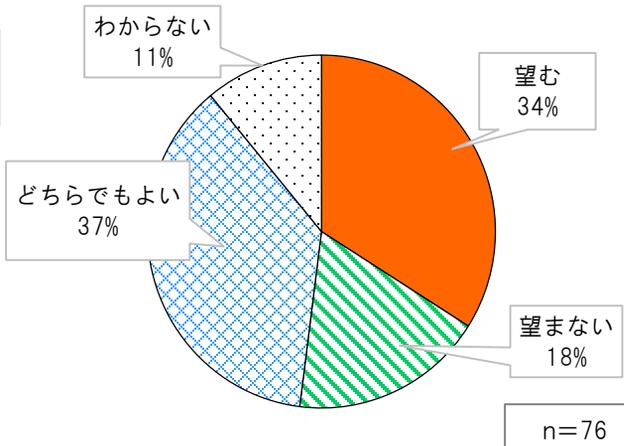
●夫婦別姓の導入を望むか(知っている方のみ)



●パートナーシップ制度について知っている人の割合



●パートナーシップ制度の導入を望むか(知っている方のみ)



●LGBTなど性的少数者について

